

福 祉

1 学習指導要領改訂の趣旨

職業に関する各教科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉）においては、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術の高度化への対応や、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であることから、地域や産業界との連携の下、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させることや、職業学科に学んだ生徒の大学等との接続が課題として指摘されている。

こうしたことから、今回改訂された学習指導要領では、産業教育において育成を目指す資質・能力を「知識及び技術」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理するとともに、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「産業の振興や社会貢献」、「協働的に取り組む」ことについて新たに明示されたものとなっている。

また、地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、社会や産業の変化の状況等を踏まえ、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応の視点から、各教科の学習内容の改善・充実が図られている。

教科「福祉」については、福祉ニーズの高度化と多様化、倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ、福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実が図られた。

- ・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
- ・ 福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
- ・ 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
- ・ 福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
- ・ 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

2 改訂の内容

(1) 教科の目標の改善

【教科「福祉」の目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
「福祉の見方・考え方」とは、生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けることを意味している。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
(1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	(2) 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

- 「体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする」とは、福祉の各分野の学習活動を通して、福祉の各事象に関する知識や関係する個別の技術について、それらを相互に関連付けるとともに、日常生活と福祉との結びつきや変化する状況や課題に応じて主体的に活用することができる知識と技術、将来の職業を見通して専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにすることを意味している。
- 「職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う」とは、社会の変化が加速し、予測困難な社会状況にある中で、福祉に携わる者として課題に向き合い、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決し、福祉を通じて未来を切り開いていくといった、福祉に関する確かな知識、技術、態度などに裏付けられた思考力、判断力、表現力等を養うことを意味している。
- 「福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う」とは、地域や価値観などの違いなどを踏まえ、福祉社会の一員として生活上の課題に関心をもつとともに、自己の役割を認識し、信頼関係の構築やコミュニケーションを図るなど他者と積極的に関わり、福祉の創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(2) 科目の改善

ア 科目構成

改 訂		現 行	
科目名	学習指導要領解説に記載されている単位数	科目名	標準単位数
社会福祉基礎	2～6	社会福祉基礎	2～6
介護福祉基礎	2～6	介護福祉基礎	2～6
コミュニケーション技術	2～4	コミュニケーション技術	2～4
生活支援技術	4～12	生活支援技術	4～12
介護過程	2～6	介護過程	2～6
介護総合演習	2～3	介護総合演習	2～3
介護実習	4～16	介護実習	4～16
こころとからだの理解	2～8	こころとからだの理解	2～8
名 福祉情報	2～4	福祉情報活用	2～4
9 科目		9 科目	

※名名称変更

- ・原則履修科目は従前と同様に「社会福祉基礎」。

イ 原則履修科目の特徴

〈社会福祉基礎〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、目標に示す資質・能力を身に付けることができるよう、(1)社会福祉の理念と意義、(2)人間関係とコミュニケーション、(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望、(4)生活を支える社会保障制度の四つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・指導項目の(3)については、欧米や日本において社会福祉思想が発展してきた過程について理解できるよう留意して指導すること。また、地域福祉の考え方や進展、近年の外国の状況などについての学習を通して、国際的な視点で社会福祉を捉えられるようにすること。
- ・指導項目の(4)については、日常生活と社会保障制度との関連について考察させるとともに、対人援助の視点から福祉に関する支援が行われる必要性について理解できるよう留意して指導すること。

ウ 主な科目の特徴

〈介護福祉基礎〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、(1)介護の意義と役割、(2)介護福祉の担い手、(3)介護を必要とする人の理解と介護、(4)介護における安心確保と危機管理の4つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・人間の尊厳や自立支援、介護従事者としての職業倫理、事故の予防や感染対策、国際生活機能分類、リハビリテーション及び虐待などに関連付けて指導すること。
- ・豊かな人間性や倫理観を育み、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービス

スを提供する態度を養うことができるよう留意して指導すること。

- ・プライバシーの保護や自己決定の保障、継続的な地域生活の支援などの人権尊の意義や重要性について理解できるよう留意して指導すること。

〈コミュニケーション技術〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、対人援助や福祉実践の場での人間関係の構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、(1)福祉実践におけるコミュニケーション、(2)サービス利用者や家族とのコミュニケーション、(3)福祉実践におけるチームのコミュニケーションの3つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・指導項目の(1)から(3)までについては、生徒や地域の実態、学科の特色に応じていずれかを選択して扱うことができること。
- ・生徒や地域の実態、学科の特色に応じて、介護実習やボランティア、地域交流の場を活用した実践的・体験的な学習活動を取り入れるなどして指導すること。
- ・生活に関する事象を、サービス利用者の状況や環境の継続性に着目して捉え、人間の尊重と自立を目指した人間関係の構築に向けて、適切かつ効果的なコミュニケーション技法と関連付けて指導すること。

〈生活支援技術〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、(1)生活支援の理解、(2)自立に向けた生活支援、(3)緊急時・災害時の支援、(4)終末期の支援、(5)医療的ケアの5つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・指導項目の(1)から(5)までについては、生徒や地域の実態、学科の特色に応じて、いずれかを選択して扱うことができること。

- ・ 自立生活を人間の尊厳、安全、・安楽、協働などの視点から捉え、「こころとからだの理解」と関連付けて、生活の質の向上やサービス利用者の状態に合った自立生活の支援の必要性について理解できるよう留意して指導すること。
- ・ 実践的・体験的な学習活動を通して、サービス利用者の自立生活の支援に関する専門的な学習への動機付けを図るなど、専門職としての生徒の意識が高まるよう工夫して指導すること。
- ・ 指導項目の(2)から(5)までについては、自立生活の支援に活用される福祉用具や介護ロボットについても理解できるよう留意して指導すること。

〈介護過程〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護過程の展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
介護過程について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護過程に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護過程の適切な展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、(1)介護過程の意義と役割、(2)介護過程の展開、(3)介護過程の実践的展開、(4)介護過程のチームアプローチの4つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・ 介護過程に関する事象を、人間の尊厳、自立生活の支援、多職種協働、国際生活機能分類の視点から捉え、生活の継続性に配慮した支援の在り方と関連付けて指導すること。
- ・ 実践的・体験的な学習を通して、介護過程の展開を実践する専門職としての生徒の意識が高まるよう工夫して指導すること。

〈福祉情報〉

【目標】		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び福祉分野における情報の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(ア) 内容

この科目は、(1)情報社会と福祉サービス、(2)情報モラルとセキュリティ、(3)情報機器と情報通信ネットワーク、(4)福祉サービスと情報機器の活用の4つの指導項目で構成。

(イ) 内容の取扱い

- ・指導項目の(3)及び(4)については、実際に情報機器や情報通信ネットワークを活用できるよう実習を中心として扱うこと。

3 質疑応答

問1 科目「介護総合演習」の指導項目(3)調査、研究、実験について、新たに加えられた実験とは何か。

実験については、介護実践の科学的探求を推進するなど多様な取組を想定しており、具体例としては、褥瘡と関連して体圧の実験や介護事故と関連して車いすが横転する角度の実験などが考えられる。

問2 専門学科における、専門教科・科目による必修科目の代替を行う際には、どのようなことに配慮したらよいか。

福祉に関する学科においては、「福祉情報」の履修により「情報Ⅰ」の履修に代替することなどが考えられるが、機械的に代替が認められるものではなく、同様の成果が期待できる場合に限られること。

問3 実験・実習を行う際には、特にどのようなことに配慮したらよいか。

近年、集中豪雨や台風等による被害が相次いで発生していることから、実習中だけでなく実習先への移動方法なども含めて、「介護実習」における災害時の危機管理体制などについて対策を講じておくこと。



4 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践例

- 福祉に関する具体的な課題を発見し、課題解決までの過程を通して、知識・技術の習得や思考力・表現力・判断力等の育成を図る学習指導の実践例を紹介する。

〈指導計画案〉

科目名	社会福祉基礎	履修学年	2 学年	
単元名	(4) 生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度			
単元の目標	高齢者福祉について関心を持ち、急速に変化する社会に対応するための知識を深め、柔軟な創造力を身に付ける。			
単元の評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	高齢者福祉に関心を持ち、さらなる高齢者福祉発展に向けて意欲的に追求する態度を身に付けている。	多様化する社会福祉について思考を深め、将来における高齢者福祉への展望を的確に考察し、表現する能力を身に付けている。	高齢者福祉における諸活動、社会的支援に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、調査研究等とおして考察した結果を的確にまとめる技術を身に付けている。	高齢者福祉における諸活動、社会的支援制度及び高齢者福祉の担い手に関する基礎的な知識を身に付けるとともにそれぞれが持つ意義・役割を理解している。
時程	学習内容とねらい	評価基準	評価方法	授業形態
第1時 (1時間)	【人口の高齢化と高齢者福祉】 【高齢者の健康保持と社会参加】 ①高齢者福祉の現状と課題について理解する。	福祉ニーズの高度化や多様化に対応するための基盤となる、高齢者福祉の現状を知識として身に付けることができる。【知・技】	ワークシートの記述	講義
第2時 (1時間)	【介護保険制度】 ①制度が創設された社会背景を理解する。 ②制度の意義や内容について理解する。	社会福祉制度に関心を持ち、日常生活と結び付け思考することができる。【思・判・表】	ワークシートの記述	講義
第3時 (2時間)	【認知症】 ①認知症のとは何かを理解する。 ②認知症の症状やケアの原則を学び、認知症の方の理解を深める。 ③認知症ケアのためのサービスを理解する。	認知症について理解し、地域に暮らす認知症の方へのアプローチを考察し、表現することができる。【思・判・表】	ワークシートの記述 レポート作成 活動状況の観察	講義 グループ学習
認知症サポーター養成講座の受講 《目的》認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域社会で自分に何ができるか考える。 《成果》インフォーマルサービスの必要性に気付く。				
第4時 (3時間)	【高齢者の在宅サービス】 ①サービスの必要性和各種サービスの内容について理解する。 ②地域生活におけるサービスの重要性を理解する。 【介護保険施設・老人福祉施設】 ①施設サービスの種類や機能、法的位置づけについて理解するとともに、地域の施設についての課題を整理する。 ②地域の課題を解決する方策を考える。	社会福祉制度に関心を持ち、日常生活と結び付け、思考することができる。【関・意・態】 認知症高齢者を支える社会福祉制度を理解し、地域の施策に関する課題や解決方策を表現することができる。【思・判・表】	ワークシートの記述 活動状況の観察	グループ学習 (聞き取り調査)
次のページの《学習活動の流れⅠ》を参照				
第5時 (4時間)	【高齢者の地域生活を支える各種サービス】 ①社会資源について理解を深め、各種サービスが身近に存在することを理解する。 ②事例研究を通し、社会資源の活用を考える。	社会資源に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、調査研究等とおして考察した結果を的確にまとめ表現することができる。【技・技】 【思・判・表】	事例研究のまとめ作成 ワークシートの記述 活動状況の観察	グループ学習
次のページの《学習活動の流れⅡ》を参照				

〈学習活動の流れⅠ〉

時程	学習活動	備考																													
3時間	<p>《ねらい》 福祉の見方・考え方を働かせ、地域の福祉サービスについて理解を深め、高齢者福祉の課題解決に向け、現状と課題の把握を行う。</p> <p>①学習のねらい及び取組の確認 ②グループ作成（アルファベットは生徒を指す）。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1G</td> <td>2G</td> <td>3G</td> <td>4G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1G</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td rowspan="4">→聞き取り調査グループ</td> </tr> <tr> <td>2G</td> <td>E</td> <td>F</td> <td>G</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td>3G</td> <td>I</td> <td>J</td> <td>K</td> <td>L</td> </tr> <tr> <td>4G</td> <td>M</td> <td>N</td> <td>O</td> <td>P</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">↓ まとめ学習グループ</p> <p>③聞き取り調査時に聞く内容をグループで整理する。 ※<u>自身の理解度の確認、知識の共有</u></p> <p>④グループに分かれて福祉関連施設・事業所に出向きサービスの内容、地域での機能・役割を聞き取り調査する。</p> <p>⑤地域生活を送る上での不便さ、改善して欲しいことなどの情報を高齢者から収集する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>⑥聞き取り調査で得た情報をグループで共有し、生徒一人一人が他者に説明できるように理解を深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>聞き取り調査まとめ 番 氏名 _____</p> <p>①サービスの内容 _____</p> <p>②地域での機能・役割 _____</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>③地域の高齢者が不便に感じている点 _____</p> <p>④地域の高齢者が改善して欲しいと感じている点 _____</p> </td> </tr> </table> </div>		1G	2G	3G	4G		1G	A	B	C	D	→聞き取り調査グループ	2G	E	F	G	H	3G	I	J	K	L	4G	M	N	O	P	<p>聞き取り調査まとめ 番 氏名 _____</p> <p>①サービスの内容 _____</p> <p>②地域での機能・役割 _____</p>	<p>③地域の高齢者が不便に感じている点 _____</p> <p>④地域の高齢者が改善して欲しいと感じている点 _____</p>	<p>メモ帳、筆記用具</p> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>生徒1人1人に役割と責任をもたせ、学習活動に意欲的に参加を促すために、聞き取り調査グループとまとめ学習グループのメンバーを変更する。 →「学び向かう力・人間性等」の向上</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>見学とインタビュー形式で情報を収集させることで、生徒自身が何を理解しているのか、何を知りたいのか整理する。 →「思考力・判断力・表現力」の向上</p> <p style="text-align: center;">【対話的で深い学び】</p> </div>
	1G	2G	3G	4G																											
1G	A	B	C	D	→聞き取り調査グループ																										
2G	E	F	G	H																											
3G	I	J	K	L																											
4G	M	N	O	P																											
<p>聞き取り調査まとめ 番 氏名 _____</p> <p>①サービスの内容 _____</p> <p>②地域での機能・役割 _____</p>	<p>③地域の高齢者が不便に感じている点 _____</p> <p>④地域の高齢者が改善して欲しいと感じている点 _____</p>																														

〈学習活動の流れⅡ〉

4時間	<p>《ねらい》 生活の継続性、環境の継続性を前提とし、よりより地域社会の実現に向けて意見を交わし自らの考えを広げ深めることができる。</p>	
-----	---	--

- ①学習のねらい及び取組の確認。
- ②グループに分かれて協議しやすい体制をつくる。
- ③事例を活用し、地域生活を支えるために必要となる社会資源について根拠を示しながら考察し、まとめる。

Aさん（80歳）は、一人暮らしの女性です。昨年、外出時に転倒、骨折してから歩行不安定となり、その不安感から、自宅に閉じこもりがちです。最近、持病の心臓病も悪化しつつあるため、さまざまなサービスを利用しながら生活を続けています。

《模造紙の記入例》



Aさん

通所リハビリテーション
《理由》

- ・歩行が不安定であり、引きこもりの原因となっている。
- ・このままだと、機能低下により歩行が難しくなるため。
- ・転倒の危険があるため。

メモ用紙配布、付箋、模造紙、マジック

学んだ知識を共有し、生活を支えるために何が必要となるのかを、その人の立場に立って考えることで、必要なサービスとその根拠を示していく。
→「知識及び技術」「思考力・判断力・表現力等」の向上
【対話的で深い学び】

- ④発表
※福祉関連施設・事業者、地域住民の参加